

韓国「併合」100年 強制連行の もう一つの被害者

残された遺族の苦しみに 耳を傾ける集い

戦前福岡には、筑豊の炭坑などに17万1千人の朝鮮人が強制動員されました。死者は1千名を超えると思われます（特高警察極秘資料では1944年1月段階の福岡県への強制動員数約11万3千人。そのうち死者は771人）。

亡くなった方の妻や子どもたちの戦後は、韓国社会全体の動乱と苦悩の中でもとりわけ厳しい生活で、夫や父を奪った日本への「恨み」多い人生だったと聞いています。

今回、強制連行者の数1位、2位の福岡県と北海道で亡くなられた方の遺族をお呼びすることになりました。遺族の方の話に耳を傾け、深い共感を持って受け止め、私たちに今何ができるのかを自らに問いかけるまたとない機会になればと思っています。はるかなる東アジア共同体を手繰り寄せるために皆さん集いませんか。

父が北海道に連行された
キム・ドンガン

金東官さん



父・礼聲は、
1942年3月、
日本へ強制徴用されました。1943年
1月24日、北海道で死亡したという知
らせを聞き、遺骨を取りに行きまし
た。しかし、父の正確な記録は確認でき
ませんでした。なんとか確認だけでも
分かっていたいと思っています。

義理の父が福岡に連行された
チョン・ユニョン

鄭倫さん



朴雲錫は、わたし
の父です。夫が生
れてから3日後に徴用
されました。義母はその事実に苦しみ、
病気になるって寝込み、2年後に亡くな
りました。夫は実父の生死を確認した
いと願っていましたが、そのことが叶
えられる前にこの世を去ってしまいま
す。生前の夫の願いを叶えたいと思
っています。

日時 2010年10月18日(月) 午後6時～8時30分

◆場所 ふくふくプラザ5階 視聴覚室

お話し——横川輝雄さん

筑豊における強制連行の犠牲者とその遺族について

◆資料代 500円

主催 強制動員真相究明福岡県ネットワーク

共催：太平洋戦争被害者補償推進協議会

後援：東北アジア歴史財団

連絡先 花房俊雄 電話 092—713—1879



(地下鉄唐人町下車4番出口から徒歩5分)